

江南市生涯学習基本計画（案）

平成 23 年 10 月

江 南 市

目次

第1章 生涯学習基本計画策定にあたって	1
1 計画策定の目的	1
2 生涯学習とは	2
3 生涯学習の必要性	2
4 計画の位置づけ	3
5 計画の期間	3
6 国の動向	3
7 愛知県の動向	5
第2章 江南市の生涯学習の現状と課題	7
1 アンケート調査等による現状の整理	7
2 現状における課題	15
第3章 基本理念と基本目標	17
1 基本理念	17
2 基本目標	18
3 施策の体系	20
第4章 基本計画	21
1 学びたいことが学べる生涯学習	21
2 やりがいが持てる生涯学習	27
3 だれもが入手しやすい生涯学習情報の提供	30
4 みんなで育てる生涯学習	32
5 生涯学習施設の活用と整備	35
第5章 計画推進に向けて	37
1 計画の推進体制	37
2 計画推進に向けての連携	38
生涯学習基本計画体系図	39

第1章 生涯学習基本計画策定にあたって

1 計画策定の目的

近年、少子・高齢化、国際化、情報化の急速な進展、環境問題の深刻化、東日本大震災による災害への対応といった社会変化の中で、人々の価値観が多様化し、各人がさまざまな課題に積極的に対応し、自立的に生きていくことが求められています。

また、人々の価値観は、生活水準の向上と余暇の過ごし方の多様化などが相まって、物質的な豊かさから精神的な豊かさの追求へと移行し、生涯学習のニーズも高まっています。

江南市では、平成 14 年 3 月に「教養を深め、文化の高いまち」の実現に向け、生涯学習社会の構築を進めるための指針となる「江南市生涯学習基本計画」を策定しました。さらに、「江南市戦略計画」において、「市民が生涯にわたって学習し、その能力を発揮する環境を整える」ことを目標とし、生涯学習の推進に取り組んできました。

しかし、計画策定後 10 年が経過し、社会情勢の変化や市民のニーズの多様化に対応するため、見直しが必要となってきました。そこで、新たな「江南市生涯学習基本計画」を策定することとなりました。

本計画は、現代社会の課題や市民の多様なニーズに応え、生涯学習活動の有効かつ効果的な推進を図るためのガイドラインを示すものであり、さまざまな分野にわたる事業を総合的かつ体系的に捉えていくことを目的とします。

本計画を策定するにあたっては、市民意識を把握するため、平成 22 年度に「江南市生涯学習に関するアンケート調査」を実施しました。この結果を踏まえて、庁内部会である「江南市生涯学習推進委員会」での協議を行い、また、各分野から推薦された人や学識経験者などで構成される「江南市生涯学習懇話会」からの提言を受けました。さらに各種団体へのヒアリング調査を実施し、様々な立場からの意見を集約することに努め、それらをもとに各施策を検討しました。

2 生涯学習とは

生涯学習とは、市民一人ひとりが興味や生きがいを感じる学習の素材を自由な意思で選択し、学習形態にとらわれずに、人生（心）を豊かにするために学ぶ活動（学習活動）です。

つまり、社会教育、学校教育、家庭教育の学習活動を含み、大人から子どもまで将来にわたり、生活していくために必要な知識や技術の習得、さらには趣味や文化活動、スポーツ、レクリエーション、ボランティアなど自らの目的に応じて、自主的な意志に基づき行うさまざまな学習活動をいいます。

また、学習活動を行った結果、その成果が身に付き、その成果を発表したり伝えたりすることにより、地域活動やボランティア活動、まちづくり活動へとつながる学習活動として捉えることができます。

3 生涯学習の必要性

人々は物質的な豊かさに加え、精神的な豊かさを求め一人ひとりが生きがいをもった有意義な人生を送ることが重要視されるようになりました。

一方で、変化の激しい現在の社会情勢において、これまでの価値観や生活様式も日々大きく変貌しています。さらに、ボランティア意識の向上やまちづくり、地域の活性化などの意識が高くなってきています。こうした中で自己実現や生活の向上を図ろうとする場合、常に新しい知識や技術を主体的に習得していく必要性も高まっています。

このように、世の中の変化の速さや時代の背景が学ぶことの必要性和重要性を増大させています。このため、各個人が社会の変化に応じ、生涯にわたり、より豊かで充実した生きがいのある人生を送るため、学び続けることができる環境づくりが必要とされています。

4 計画の位置づけ

本計画は、「江南市戦略計画」を上位計画とします。

また、本計画は、福祉、児童、男女共同参画、環境をはじめ、多岐の分野にわたる計画であるため、各々の分野での施策の基本方針との連携を図っていくものです。

5 計画の期間

「江南市生涯学習基本計画」の計画期間は、平成 24 年度を初年度とし、平成 33 年度までの 10 年間とします。ただし、計画期間内であっても、社会情勢の変化や市民のニーズの変化などを勘案して、必要に応じて見直しを行います。

また、市全体での生涯学習の総合的な推進を図るため、上位計画である「江南市戦略計画」の中期基本計画の最終年度（平成 25 年度）及び後期基本計画の最終年度（平成 29 年度）において、事業進捗の状況を考慮し、計画の評価を行うこととします。

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34			
計画名																			
	江南市戦略計画																		
	前期基本計画					中期基本計画					後期基本計画								
江南市生涯学習基本計画	計画期間																		
							★					★				★			

★…計画の評価

平成4年の生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」では、「人々が生涯のいつでも、どこでも、だれでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される生涯学習社会の構築を目指す」ことが提言されました。これを踏まえ、平成16年3月に今後の生涯学習振興方策の基本的方向が「今後の生涯学習の振興方策について（審議経過の報告）」で報告されています。平成17年6月13日、文部科学大臣から中央教育審議会に対し、「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」の諮問が行われ、審議を進めてきた結果、平成20年2月19日に答申されました。

「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」

～知の循環型社会の構築を目指して～ （中央教育審議会答申原文より抜粋）

今後の生涯学習の振興方策について

社会の変化に対応していくためには、自ら課題を見つけ考える力、柔軟な思考力などに加え、豊かな人間性等を含む総合的な「知」が必要となっています。

また、自立した個人やコミュニティの形成への要請、持続可能な社会の構築への要請等を踏まえ、生涯学習振興の必要性が高まっています。

- 国民一人一人の生涯を通じた学習の支援－国民の「学ぶ意欲」を支える
 - ・今後必要とされる力を身に付けるための学習機会の在り方についての検討
 - ・多様な学習機会の提供、再チャレンジが可能な環境の整備
 - ・学習成果の評価の社会的通用性の向上
- 社会全体の教育力の向上－学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり
 - ・身近な地域における家庭教育支援基盤の形成等
 - ・家庭教育を支援する人材の養成
 - ・学校を地域の拠点として社会全体で支援する取組の推進 など

生涯学習を振興していくうえで重視すべき観点 ※中間報告より抜粋

○国民の学習活動を促進するために必要な5つの視点

- 視点1 国民全体の人間力の向上
- 視点2 「公共」の視点の重視
- 視点3 人の成長段階に即した多様な選択肢を提供する政策の重点化
- 視点4 実社会のニーズを生かした多様な学習機会の提供
- 視点5 情報通信技術の一層の活用

○家庭の教育力向上に必要な3つの視点

- 視点1 親と子どもの主体的な「育ち合い」（共育）
- 視点2 地域全体での子育ての「支え合い」（共同）
- 視点3 多様性の認識の「分かち合い」（共生）

○地域の教育力向上に必要な3つの視点

- 視点1 地域全体での子育て「支え合い」（共同）
- 視点2 地域の課題解決は地域自身の手で「助け合い」（共生）
- 視点3 家庭や地域の教育力と学校教育の効果的な連携「つながり合い」（共育）

愛知県においては、平成7年度に「愛知県生涯学習推進構想」を策定し、「県民一人ひとりが自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果を社会において生かすことにより、日々生きがいを持って充実した人生を送ることができる生涯学習社会」の実現を目指しています。さらに、平成10年度に策定された「新世紀へ飛躍～愛知2010計画」においても、「生き生き・安心あいち」を実現するにあたって、重点的に進める取り組みとして「生涯にわたる学習機会の充実」を掲げるなど、生涯学習推進の諸施策が示されています。

＜愛知2010計画における学習・教育分野における施策の方向性＞

- ① 幼児期からの心の教育の充実
- ② 生き生きとした子どもを育てる学校教育の推進
- ③ 学校と家庭・地域社会との連携
- ④ 選択性の高い生涯学習の環境整備
- ⑤ 生涯スポーツの振興
- ⑥ 高等教育機関の充実

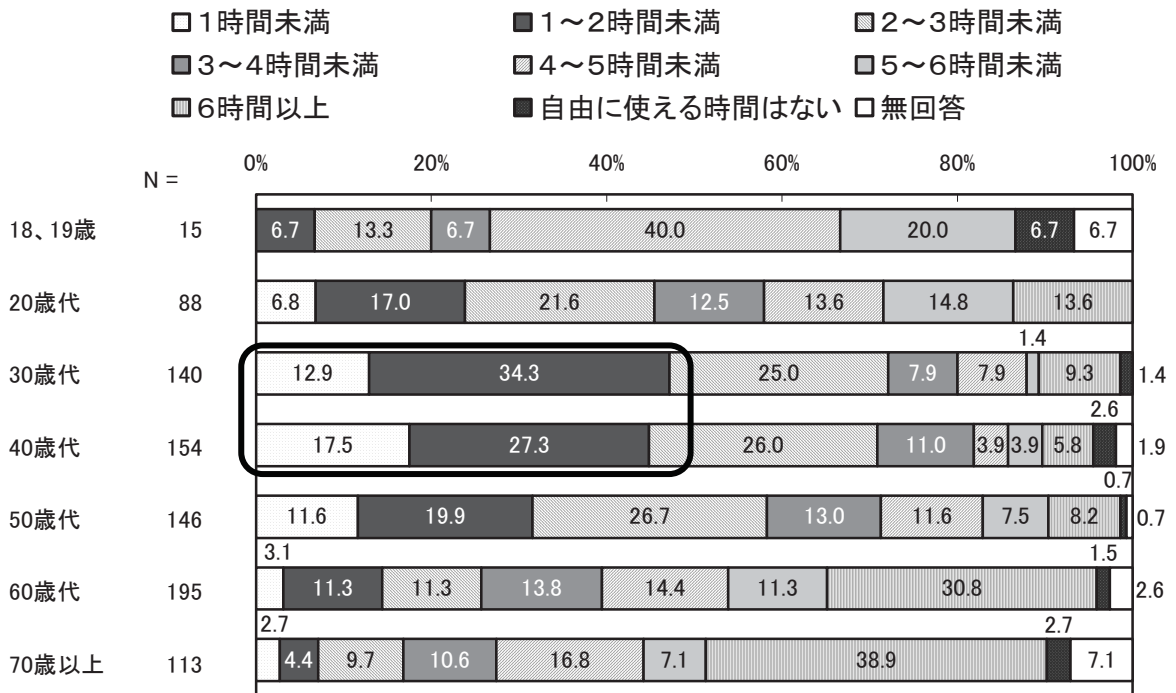
平成18年3月には、「愛知県生涯学習推進構想」の一部改定が行われました。科学技術の高度化、情報化、国際化などの社会の変化に対応し、新しい知識・技術を習得する必要性、生きがいや精神的な豊かさを追求する意識の変化、「何をどれだけ学んだか」が適切に評価される社会の構築の必要性などを背景に、生涯学習を「人々が、人生を豊かにするために、自ら進んで行うさまざまな学習活動」として捉え、「学習機会の拡充」、「学習環境の整備」、「学習成果の評価と活用」の大きく三つの柱を中心に推進する方向で見直し、各種の関連施策に取り組んでいます。

第2章 江南市の生涯学習の現状と課題

1 アンケート調査等による現状の整理

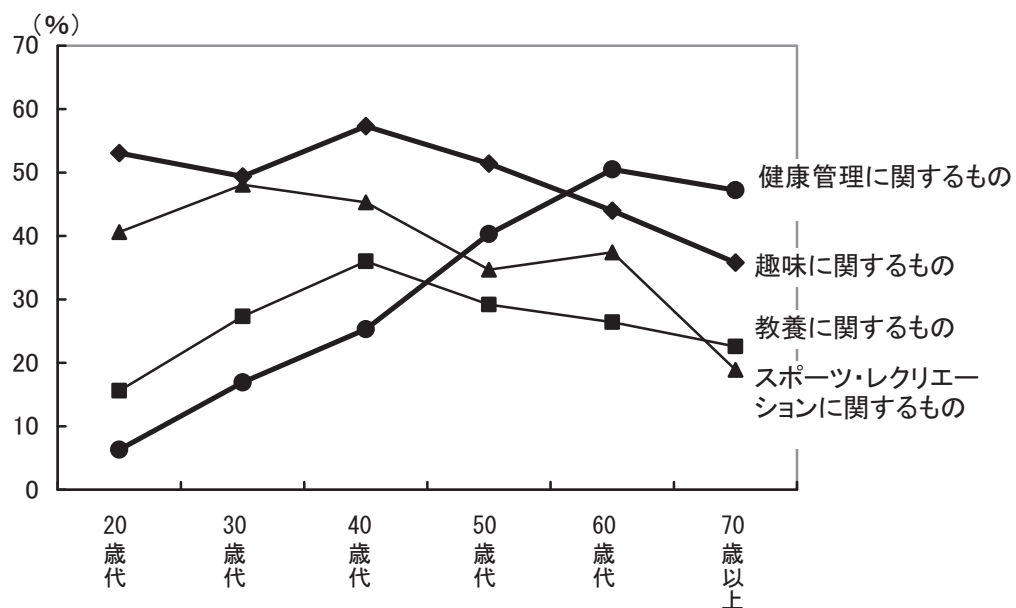
(1) 自由に使える時間について

平日において、自由に使える時間を年齢別で見ると、30歳代、40歳代では4割以上が2時間未満となっており、時間的な制約が大きくなっています。



(2) 参加したい生涯学習活動について

参加したい生涯学習活動をみると、20 歳代～50 歳代では「趣味に関するもの」が、60 歳代以上では「健康管理に関するもの」が上位に挙げられており、定年を迎えた世代との違いが鮮明になっています。

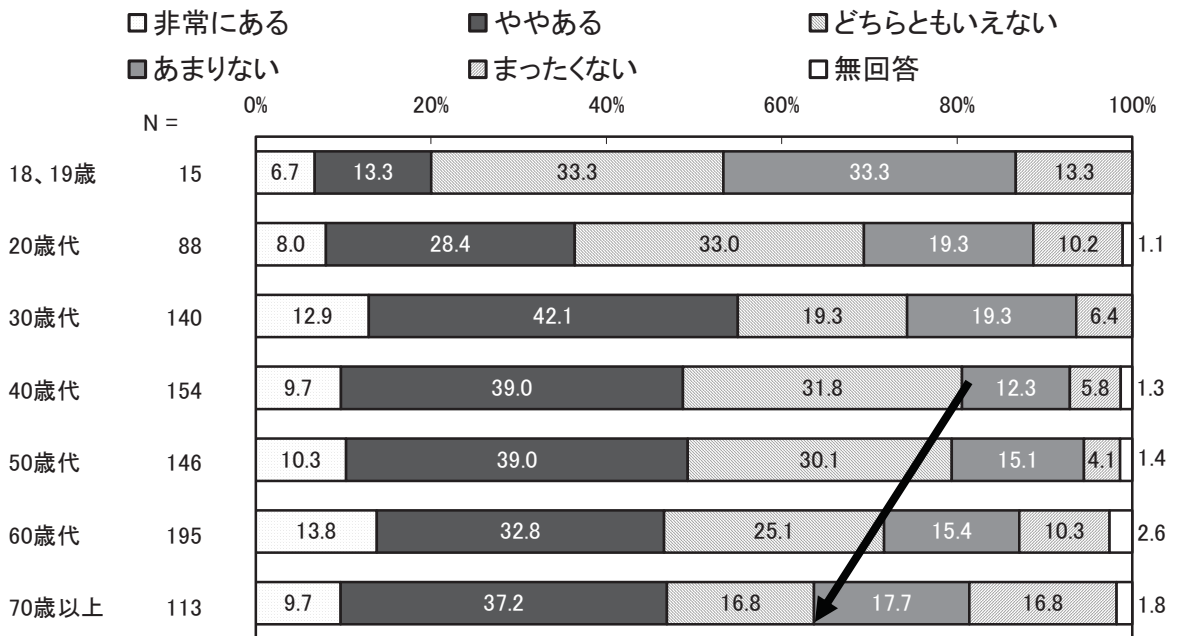


(3) 生涯学習活動への参加意欲と必要意識について

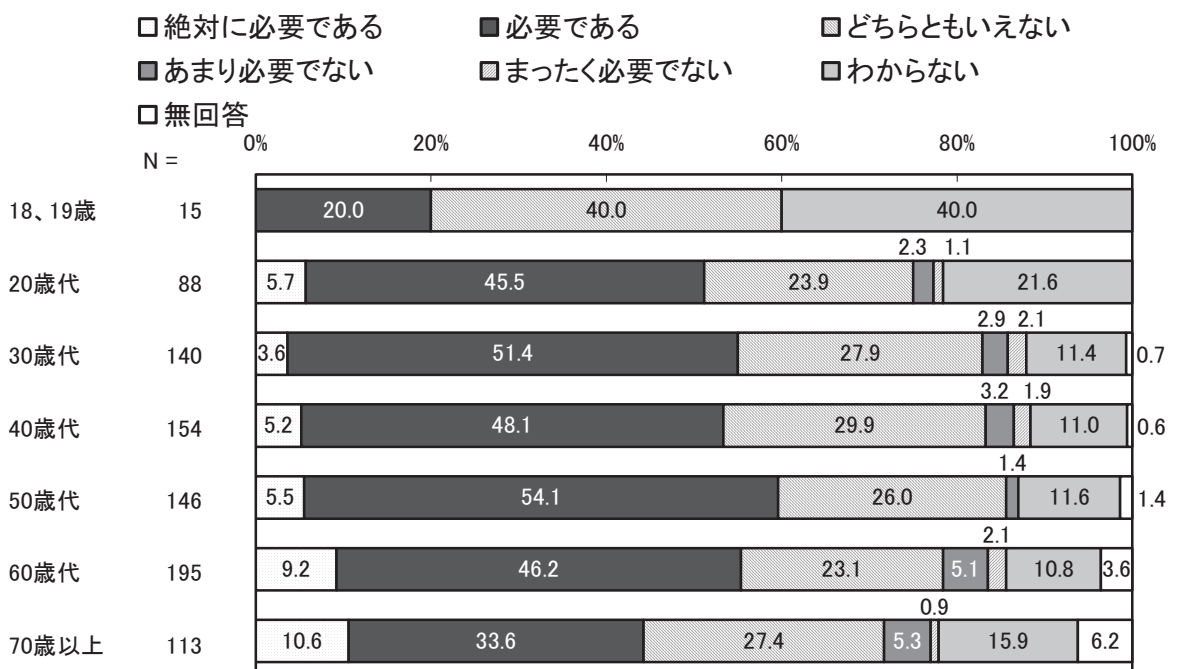
生涯学習活動への参加意欲と必要意識をみると、30歳代で参加意欲がある人が5割以上となっています。40歳代以上では年齢が上がるほど参加意欲のない人が増加しています。

生涯学習活動の必要性については、70歳以上を除き、5割以上が必要性を感じています。

生涯学習活動への参加意欲

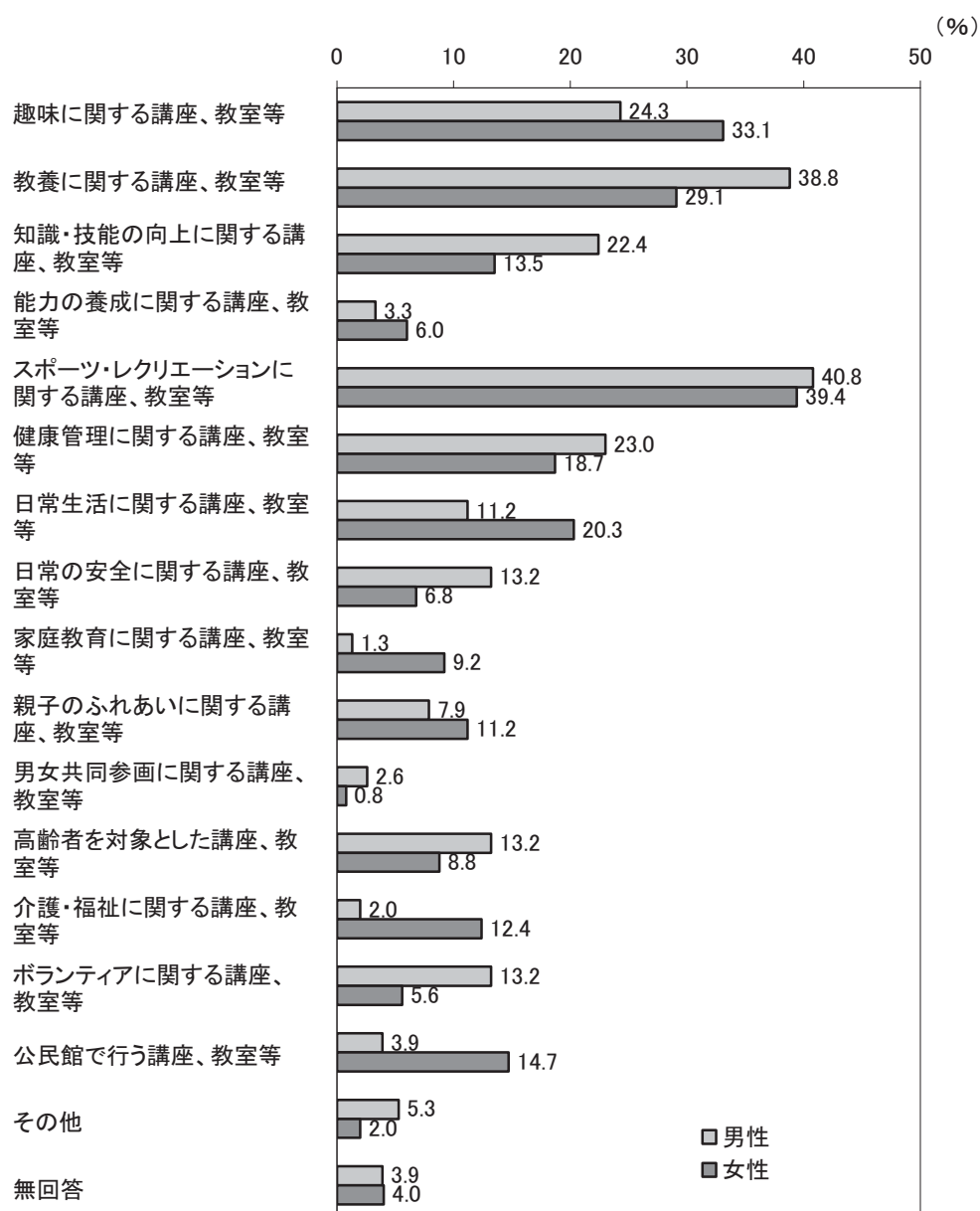


生涯学習活動の必要性



(4) 参加したい講座・教室について

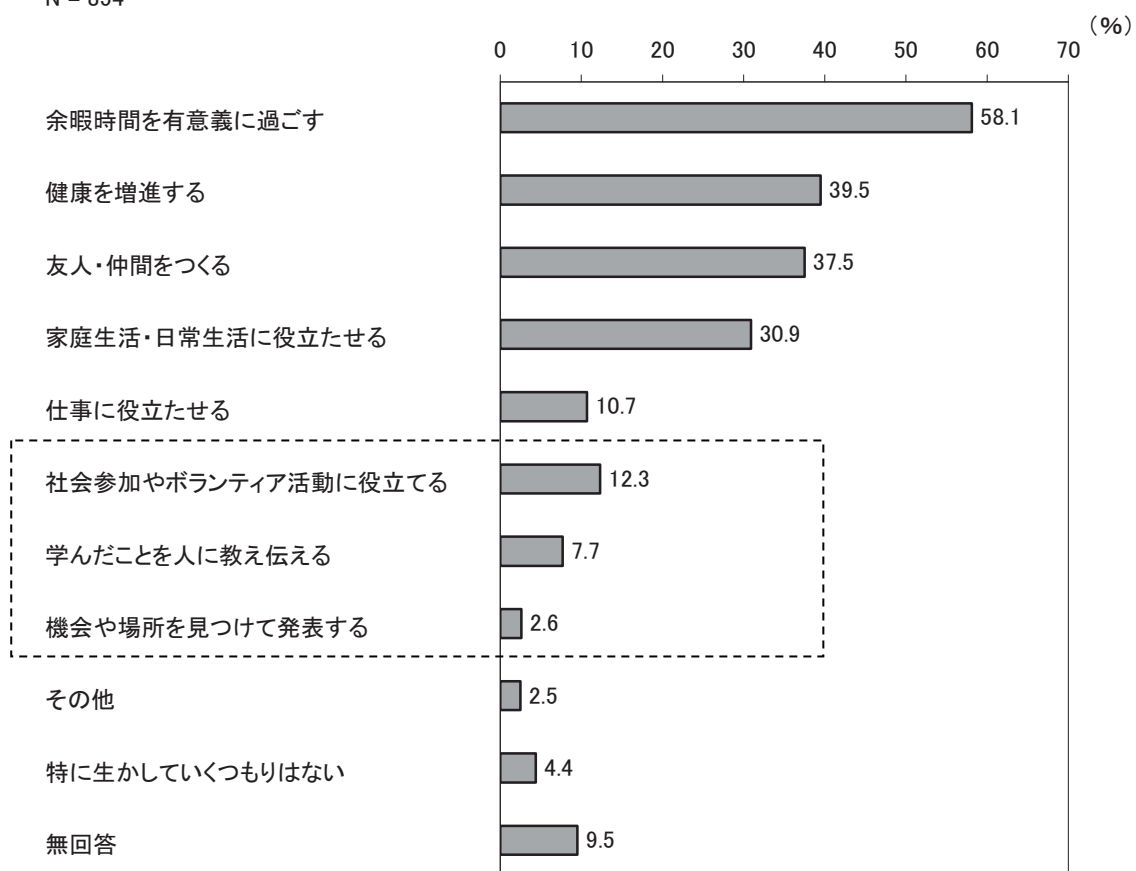
参加したい講座・教室等をみると、「スポーツ・レクリエーションに関する講座、教室等」「教養に関する講座、教室等」「趣味に関する講座、教室等」などが上位に挙げられています。その中で、「ボランティアに関する講座、教室等」については、男性で参加希望が高く、女性の2倍以上となっています。



(5) 学習成果の生かし方について

学習成果の生かし方をみると、「余暇時間を有意義に過ごす」などが上位に挙げられている中で、「社会参加やボランティア活動に役立てる」「学んだことを人に教え伝える」といった社会還元へ生かすことを希望する人もみられます。

N = 854

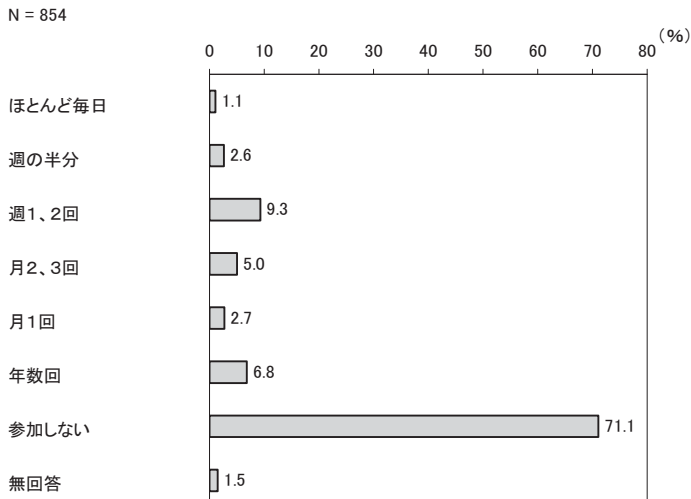


(6) 生涯学習活動への参加状況について

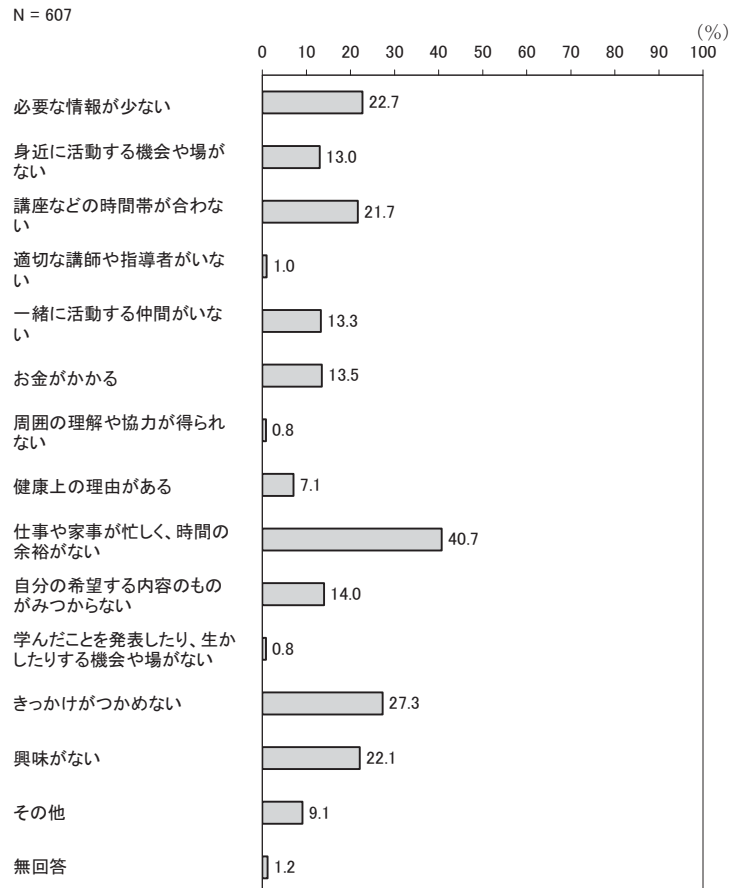
生涯学習活動への参加状況を見ると、「参加しない」が約 7 割を占めています。

生涯学習活動に参加しなかった理由をみると、「仕事や家事が忙しく、時間の余裕がない」の割合が最も高く、次いで「きっかけがつかめない」「必要な情報が少ない」となっています。

生涯学習活動への参加状況



生涯学習活動に参加しなかった理由

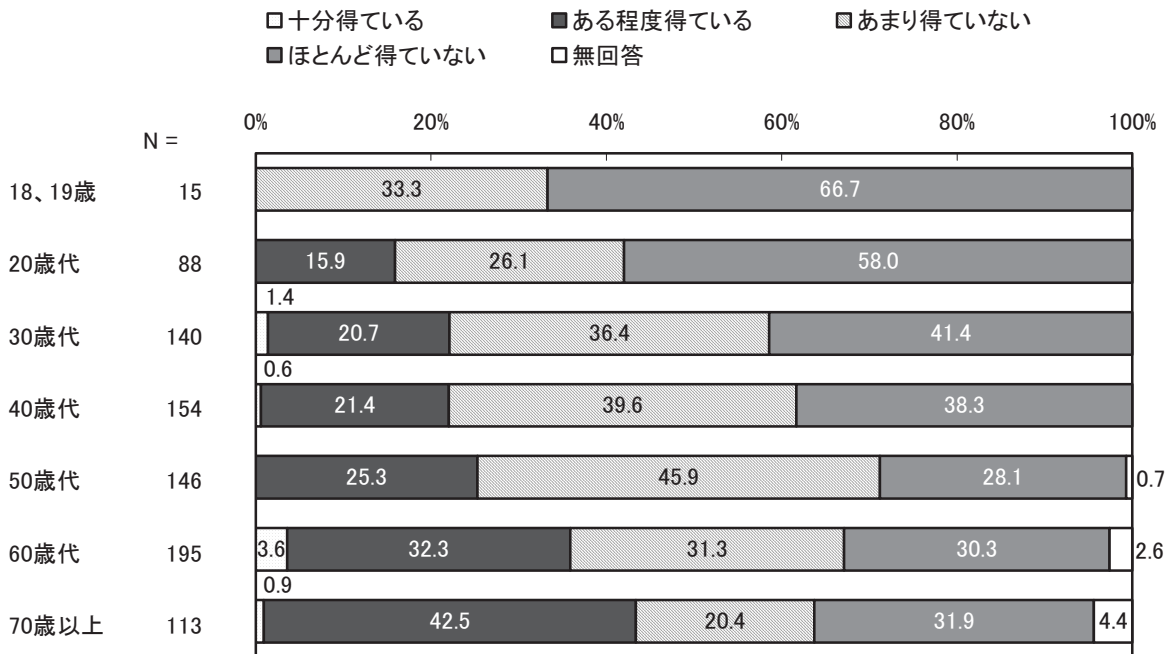


(7) 生涯学習に関する情報の入手状況について

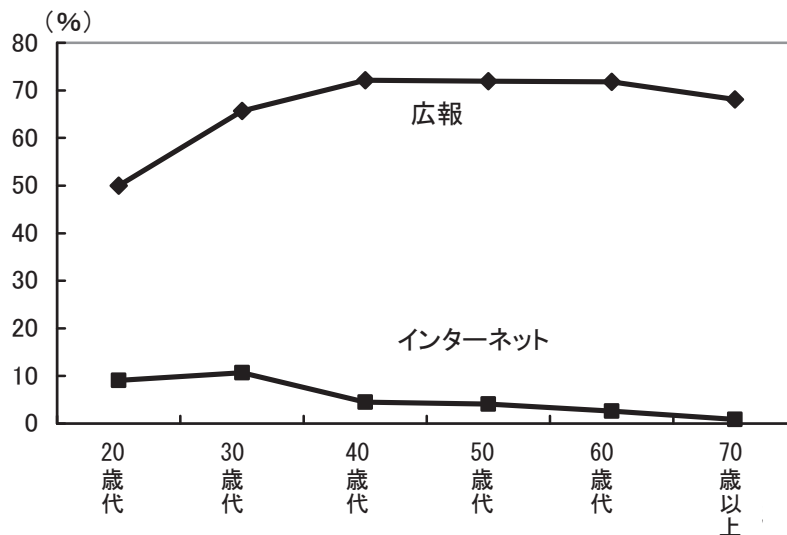
生涯学習に関する情報の入手状況をみると、年齢が下がるほど情報が得られていない傾向がみられます。

生涯学習に関する情報の入手方法をみると、「広報」の割合が高くなっていますが、20歳代では他の年代に比べて低くなっています。「インターネット」より情報を得ている人の割合をみると、20歳代、30歳代で高くなっています。

生涯学習に関する情報の入手状況



生涯学習に関する情報の入手方法

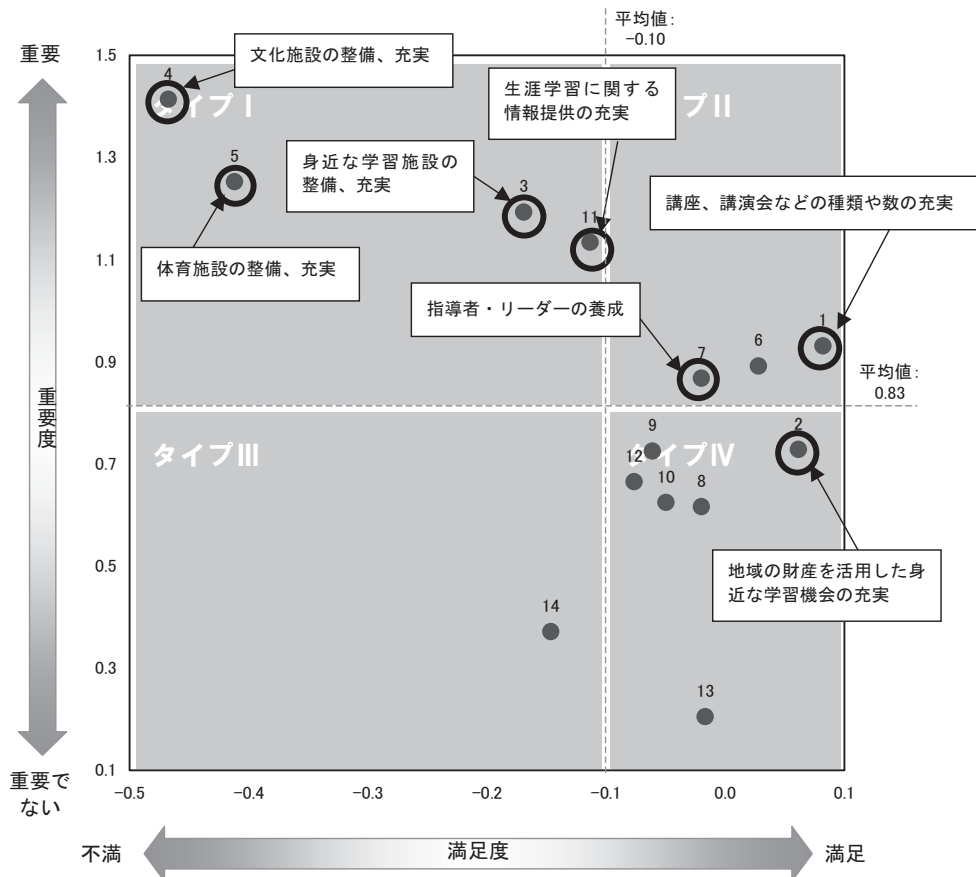


(8) 生涯学習施策の重要度と満足度の分析結果

満足度をみると、「文化施設の整備、充実」「身近な学習施設の整備、充実」「体育施設の整備、充実」の満足度が低くなっています。さらにこれらについては重要度が高くなっていることから、本市における生涯学習を推進していく上で主要な施策となっています。

【ポートフォリオによる分析】

江南市における生涯学習の取り組みについて、重要度と満足度という2つの指標を取り上げ、縦軸に重要度、横軸に満足度の点数を並べたものです。江南市における生涯学習の取り組みについて、とるべき対策と優先順位が明らかとなります。



・生涯学習の環境づくりについて

区 分	
①講座、講演会などの種類や数の充実	⑧各種サークル・グループの育成
②地域の財産を活用した身近な学習機会の充実	⑨学校における生涯学習活動に対する指導の推進
③公民館・学習等供用施設・児童館などの身近な学習施設の整備、充実	⑩大学の公開講座、社会人の受け入れ体制の充実
④図書館・市民文化会館などの文化施設の整備、充実	⑪生涯学習に関する情報提供の充実
⑤体育館・グラウンド・プールなどの体育施設の整備、充実	⑫生涯学習に関する相談体制の充実
⑥ボランティアの育成、ボランティア活動の推進	⑬学んだことを発表できる場の提供
⑦指導者・リーダーの養成	⑭その他

生涯学習の内容と活動の機会と場を充実する

生涯学習活動の参加意欲は、30歳代以上で高くなっており、特に働き世代で高くなっています。参加してみたい生涯学習活動としては、「趣味に関するもの」や「スポーツ・レクリエーションに関するもの」などが多くなっています。しかし、この年代では、自由に使える時間が、他の年代に比べ少なくなっており、時間的な制限によって生涯学習活動に参加できないことが考えられます。

さらに、生涯学習活動への参加意欲については、年齢が上がるにつれ低くなってきており、また、生涯学習活動の必要性についても低くなってきています。

生涯学習活動へのニーズは世代や性別によってさまざまです。市民のニーズを十分に把握し、対応することが必要となっています。さらには、生涯学習の重要性などを啓発し、生涯学習活動への参加を促すことが必要です。

目標ややりがいをもって活動する

学習成果の生かし方については、「余暇時間を有意義に過ごす」や「健康を増進する」など、自分自身の生活を向上させるために行っている市民が多くなっています。一方で「社会参加やボランティア活動に役立てる」や「学んだことを人に教え伝える」、「機会や場所を見つけて発表する」など、自分の学習成果を社会に還元したい、みんなに教えたいと考えている市民もいます。学習成果を社会に還元することや市民に教えていくことは、学習意欲を高めていくことにもつながります。市民の学習意欲を高めていくためにも、やりがいや目標もてる生涯学習活動の環境を整備していくことが必要です。

だれもが入手しやすい情報を提供する

生涯学習に関する情報の入手状況をみると、どの年代においても、あまり情報を得られていない状況にあります。特に若年層では情報を得られていない状況となっています。

情報の入手手段として、広報による入手が多くなっていますが、20歳代、30歳代においては、インターネットによる入手も多くなっています。市民の誰もが、生涯学習に関する情報を得られるための情報提供が必要です。

生涯学習施設の活用と整備をする

生涯学習を行っていくうえで、市民は身近な学習施設や文化施設、体育館などの整備、充実が必要であると感じています。生涯学習ニーズの高度化、多様化に対応できるよう、既存施設の有効的な活用と、新たな生涯学習拠点として、体育館や図書館の整備の検討が必要です。

第3章 基本理念と基本目標

1 基本理念

(1) 計画の基本理念

めざす生涯学習社会とは、

- ・ いつでも、どこでも、だれでも、自発的に学習し、自己を高め、充実した生活を送ることのできる社会
- ・ 生涯を通して、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、それが適切に評価され、生活のあらゆる場に生かすことができる社会
- ・ 一人ひとりが学習活動で生きがいを見つけ、習得した成果を活用し、人と人とのつながりによって学習活動を発展させることができる社会

です。

これらの生涯学習社会の実現をめざすとともに、市民の主体的な参加によって、誰もが、その人の学びやすい場所、時間で生涯学習を行うことができる生涯学習のまちをめざすため、本計画の基本理念を次のように設定します。

みんなでつくる「いつでも、どこでも、だれでも」学べる
生涯学習のまち こうなん

(2) 基本理念の実現に向けた数値目標

本計画の基本理念を実現するために、本計画では、数値目標を設定し、この数値目標の達成に向け、計画を推進していきます。

本計画を策定するにあたり、平成 22 年度に「江南市 生涯学習に関する市民意識調査」を実施しましたが、上位計画である江南市戦略計画の「生涯学習」における成果目標を数値目標とし、江南市戦略計画の見直し時点で、目標値の達成状況を評価していきます。

全体目標

市民が生涯にわたって学習し、その能力を発揮する環境が整っている

指標名	単位	基準値	目標値			説明
			H25	H29	H33	
生涯学習活動に参加していると意識している市民の割合	%	16.6 (H22)	22.9	24.9	26.9	市民の生涯学習活動の実施状況を推定するもの。

※基準値は、平成 22 年度市民満足度調査の結果数値

2 基本目標

1 学びたいことが学べる生涯学習

市民のニーズは世代によっても異なり、また、変化の激しい現代の社会状況においては、社会的ニーズも大きく変化しています。

そのため、市民の様々なニーズを十分に把握し、それに柔軟に対応した生涯学習の提供に努めるとともに、地域社会と連携し、市民参加のまちづくりを図るための生涯学習の展開に努めます。

2 やりがいが持てる生涯学習

市民の学習意欲を高めるために、学んだことを発表する機会と場の充実を図るとともに、学んだことを生かして社会に還元できる環境の整備に努めます。

3 だれもが入手しやすい生涯学習情報の提供

市民の誰もが、学ぶ機会が得られるための情報提供と相談機能の整備に努めます。

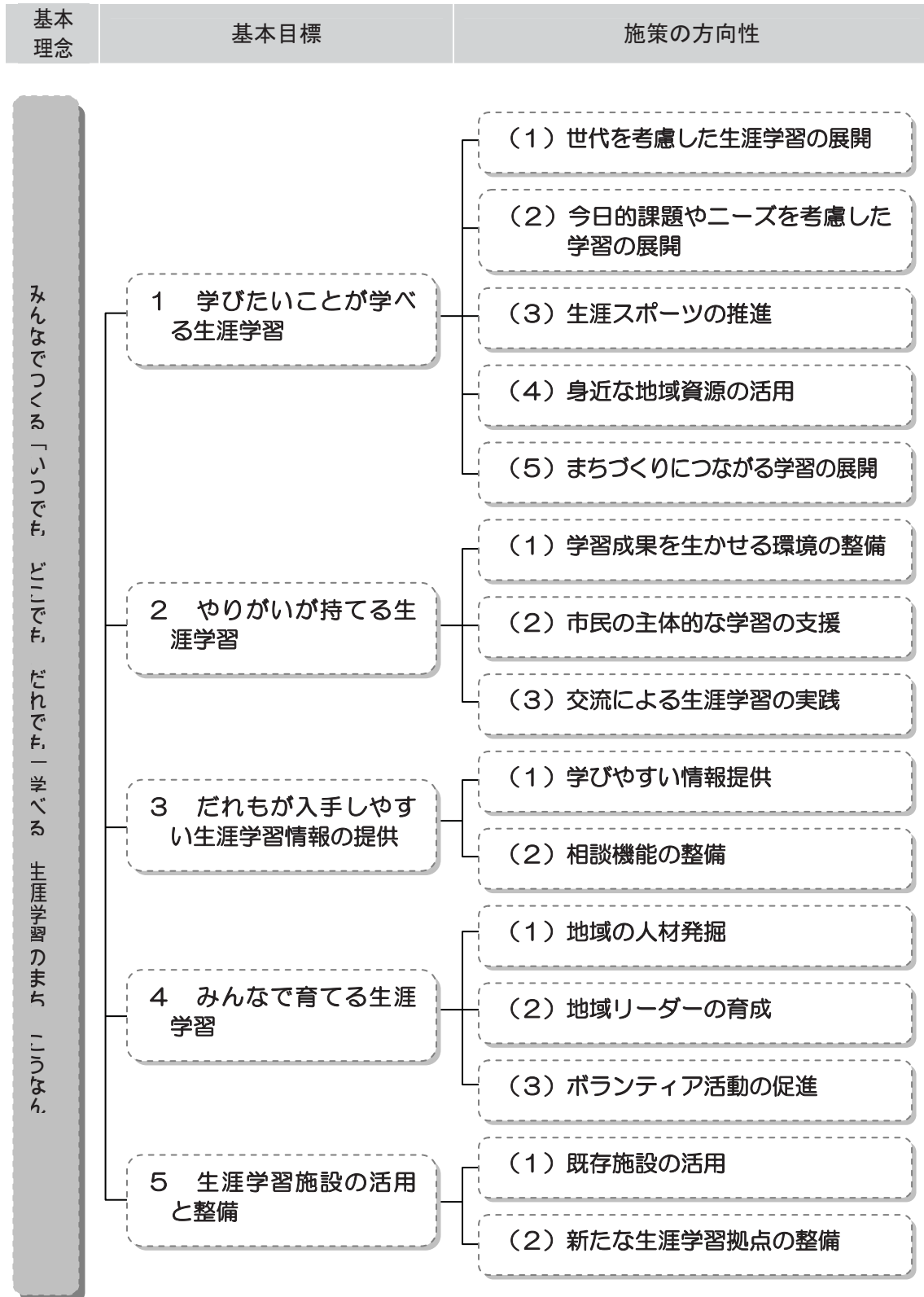
4 みんなで育てる生涯学習

多様化する学習ニーズに的確に対応し活発な生涯学習を展開するために、地域の人材の活用に向けた仕組みづくりに努めます。

5 生涯学習施設の活用と整備

学習ニーズの高度化、多様化に対応するため、既存施設の有効的な活用とともに、新たな生涯学習拠点として、体育館や図書館の整備にむけた調査、研究を行っていきます。

3 施策の体系



第4章 基本計画

1 学びたいことが学べる生涯学習

(1) 世代を考慮した生涯学習の展開

現状・課題

生涯学習は市民の主体的な活動が中心となることから、市民の日常生活と密接な関係があるといえます。市民の日常生活はライフステージによって変化するものであり、年齢とともに生活様式が変化しても、生涯を通して学習できる環境づくりが必要となります。本市では、各世代のニーズに対応するため、様々な事業を行ってきており、「講座、講演会などの種類や数の充実」においては、市民の満足度も高くなっています。しかし、年齢や性別によって、自由に使える時間や余暇の過ごし方が違い、30歳代、40歳代では、生涯学習活動への参加意欲が高いものの、時間的制限によって生涯学習活動に参加できない状況がみられます。また、年齢によって、生涯学習活動に参加してみたい内容が異なっており、個人の価値観の違いやライフスタイルの違いなども影響していると考えられます。そのため、各年代のニーズをしっかりと把握するとともに、対象を絞った生涯学習活動の展開が必要です。また、各年代が参加しやすい時間帯や場所での生涯学習活動の開催が求められており、内容についても対象の年齢のニーズに応じた事業を行っていく必要があります。さらに、市民全体の学習活動への関心を喚起し、参加意欲を高めていくための学習の展開が必要です。

※ライフステージ：人の一生を乳幼児期、少年期、青年期、成人期、高齢期などに分類した各段階のこと

方向性

一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通して意欲的に学ぶことを促す環境づくりを進めます。また、多くの市民が学習活動に参加できるよう、各世代の学習ニーズを把握するとともに、ライフステージに応じた学習活動ができるよう、学習機会の提供を充実します。さらに、障害のある人や子育て中の親をはじめ、様々な環境にある人の学習活動を支援します。

施策の展開

- ①小中高生を対象にした学習の展開
- ②成人を対象とした学習の展開
- ③高齢者、障害のある人を対象とした学習の展開
- ④子育て期にある家族を対象とした学習の展開
- ⑤学習ニーズの把握

(2) 今日の課題やニーズを考慮した学習の展開

現状・課題

人生を豊かにするために、生涯を通して学ぶことで生きがいや楽しみをもつことが求められています。近年、市民の生活様式の多様化にともない、学習内容や学習する時間帯など、市民の学習へのニーズも多種多様となっています。また、少子・高齢化、国際化、高度情報化、環境問題の顕著化がさらに進んでいることに加え、東日本大震災などにより、災害に対する市民の意識がさらに高まっています。本市においては、情報化、男女共同参画などに関する学習機会を提供してきました。アンケート調査では、若年層において生涯学習の参加意識が低い傾向がみられますが、生涯学習の必要性を感じている若者が多いこともうかがわれます。このような状況を踏まえ、今後も、情報化や男女共同参画に関する問題など、今日的な課題に対する問題解決手段としての学習活動が必要です。

方向性

社会の変化に伴い、日常生活においても、新しい知識や多様な価値観が求められる状況が発生しています。こうした市民の価値観の多様化、社会の変化などから発生する学習ニーズをはじめ今日的な課題に関する学習活動を支援します。

施策の展開

- ①技術革新・情報化に対応する学習機会の提供
- ②男女共同参画推進に向けた学習機会の提供
- ③高齢化に対応する学習機会の提供
- ④環境に優しい社会に対応する学習機会の提供
- ⑤健康に関する学習機会の提供
- ⑥消費生活に関する学習機会の提供
- ⑦防災及び安全に関する学習機会の提供
- ⑧人権及び平和に関する学習機会の提供

(3) 生涯スポーツの推進

現状・課題

近年、幼児期から高齢期まで、生涯を通じて誰でも健康で明るく、生きがいのある豊かな人生を送るために、それぞれのライフステージや目的・考え方に応じて自分の生活の中にスポーツを取り入れ、生涯にわたってスポーツに親しんでいこうとする生涯スポーツの理念が定着してきています。本市では、市民体育会館・武道館、市営グラウンドなどがあり、地域活動やクラブ活動など多くの市民に広く利用されています。しかし、少子化に伴い、スポーツ少年団などスポーツクラブに加入する子どもは減少傾向にあることから、競技団体の維持など、関係者と一体となった取り組みが必要です。また、身近な地域でのスポーツを推進していく上で、誰もが気軽にスポーツを行うことのできる環境づくりをめざし、スポーツ少年団など既存のスポーツクラブ等の育成をはじめ、総合型地域スポーツクラブづくりについても積極的に取り組んでいく必要があります。さらに、こうした市民のスポーツ活動を支える指導者の育成が重要です。

方向性

子どもから高齢者まで、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを通して健康で明るく活力ある生活を送ることができるよう、スポーツに親しめる環境づくりを推進します。また、地域間交流・世代間交流などを通して地域スポーツの活性化を図るため、地域住民が主体的に運営し、地域の特性や実状に応じてスポーツを楽しむことができる総合型地域スポーツクラブの育成に努めます。

施策の展開

- ①参加しやすいスポーツ事業の推進
- ②地域スポーツの推進
- ③子どものスポーツ活動の推進
- ④競技スポーツの振興

(4) 身近な地域資源の活用

現状・課題

地域に根ざした学習活動を展開することは、市民のふるさと意識を高め、地域に対する誇りにつながります。本市では、歴史・文化的資源、自然的資源、産業的資源、人的資源を活用した生涯学習活動を展開してきました。また、多くの歴史・文化的な資源があり、生涯学習の役割としても、文化や自然とのふれあいを体験できるような学習活動の推進が求められています。アンケート調査では、地域資源を活用した身近な学習機会について、市民の満足度は高くなっています。今後も、「歴史・文化的な地域資源」「自然的な地域資源」「社会的な地域資源」を活用した生涯学習活動を充実していく必要があります。その中で、高齢者と子どもとの交流を図り、世代間でのコミュニケーションの場を充実させることが重要です。また、社会的な地域資源でもある愛知江南短期大学などとの連携を図り、市民へ多様な学習機会を提供していくことが求められています。

方向性

歴史・文化的資源を活用し、子どもから高齢者までが気軽に親しめる文化、学習事業などの展開に努めます。各地区に配置されている教育施設、体育施設、文化施設、コミュニティ施設及び福祉・保健施設など既存の施設の有効活用により、多くの学習の場として、柔軟な活用に努めます。地区の公民館や集会場は地元の人々の交流の場として、地域に密着したものとなっています。このようなことから、地域の施設を学習の場として有効的に活用できるよう支援に努めます。さらに木曾川河川敷の緑地公園などを活用した学習活動を推進します。

施策の展開

- ①歴史・文化、自然、産業、人的資源の活用
- ②民間施設の活用の支援
- ③公共施設の柔軟な活用
- ④野外での学習の展開

(5) まちづくりにつながる学習の展開

現状・課題

地域の活力を上げていくためには、多様化する市民の生活様式などへの対応だけでなく、より幅広く学習活動を展開し、地域の活性化へつながる仕組みづくりが求められます。アンケート調査では、ボランティアに関する講座や教室において、男性の興味が高くなっています。そこで、ボランティアを活用したまちづくりに向けた学習の展開をさらに充実していく必要があります。また、市民が自らまちづくりについて考える学習や学習活動の展開を充実していく必要があります。

方向性

学習活動を通して市の活力が向上されるよう、市全域で行われている学習活動を体系的に位置付けるとともに、それらの活動がまちづくり活動へと発展することをめざします。さらに、まちづくり活動についての周知を徹底し、市民のまちづくり活動への意識の高揚を図るとともに、市民が自らまちづくりについて考える学習や学習活動の展開に努めます。

施策の展開

- ①市民のまちづくりの活動への支援
- ②芸術文化の振興を図る学習の展開
- ③出前講座の展開

2 やりがいが持てる生涯学習

(1) 学習成果を生かせる環境の整備

現状・課題

生涯学習活動の成熟化とともに、学習者の中には、さらなるレベルアップとして、地域社会に寄与したいと考える人も多く、学習成果や取得した資格を生かせる場の提供が求められています。本市では、市美術展や公民館フェスタ、各種団体が実施している市民祭など、学習成果を発表する機会や場を提供、支援をしてきました。アンケート調査では、生涯学習で学んだことを人に伝えたい、教えたいと考えている市民や、機会や場所を見つけて、自分の学習成果を発表したいと考えている市民がみられました。学習活動を行う上で、目的意識や目標を持って学習することが重要なことであり、今後も学んだことを発表できる場や、地域社会に生かしていける環境の整備の充実を今後も図っていく必要があります。

方向性

目的意識あるいは目標を持って学習することを支援するために、学んだことを発表できる場、あるいは地域社会に生かしていける環境の整備に努めます。

施策の展開

- ①学習成果を発表する機会と場の充実
- ②学習成果を還元できる環境の整備

(2) 市民の主体的な学習の支援

現状・課題

生涯学習は、学習者の主体的な学習活動です。講座やイベントなど様々な学習活動について、参加者自身が企画の段階から参加すること自体が生涯学習の一環であり、地域社会に対する見識を広げることにもつながるものと言えます。アンケート調査では、市民の生涯学習への参加状況が低くなっており、市民のニーズに対応した内容の学習活動を展開していくことが重要です。また、自主的に生涯学習活動を行っているサークル団体などにおいても、会員の高齢化や入会者が少なくなってきたことが問題となっています。さらに、活動場所の問題や、設備の問題なども顕著となってきています。そのため、市民の自主的な活動への支援や市民参画の学習の推進を図っていく必要があります。

方向性

企画の段階から参加すること自体が生涯学習の一環であり、地域社会に対する見識を広げることにもつながるものと言えます。そのため、市民の自主的な活動への支援や市民参画の学習の推進に努めます。

施策の展開

- ①自主的学習活動に対する支援
- ②市民参画の学習の推進

(3) 交流による生涯学習の実践

現状・課題

市民の生涯学習活動は、地域におけるコミュニティ育成の基盤づくりであり、社会参加を促しながら交流活動を積極的に行うことが大切です。国際化が進む中で、在住外国人との交流において、市民の国際理解の向上を図ることが重要です。本市では、江南市国際交流協会などの国際交流活動・多文化共生活動のほか、多世代交流や子どもたちの異年齢交流など様々な交流活動が行われています。今後は、こうした交流活動を一層推進する必要があります。

方向性

国際化が進み、在住外国人が増加する中で、生涯学習活動を通して在住外国人との交流活動を支援します。また、多文化のみでなく、多世代、異年齢など様々な交流を推進します。

施策の展開

- ①多文化交流による生涯学習活動の支援
- ②世代間による交流活動の促進

3 だれもが入手しやすい生涯学習情報の提供

(1) 学びやすい情報提供

現状・課題

生涯を通して学習活動を実施するためには、自分に適した学習を選択し、効果的・効率的に学習活動を進める必要があります。このためには、学習に関する情報提供の充実が必要です。本市では、生涯学習活動の情報提供として、広報やインターネットによる情報提供を行ってきました。しかし、アンケート調査では、広報などでの情報収集では自分が知りたい情報が入手できないことから、生涯学習活動への参加につながっていない面がみられます。また、市民は、生涯学習に関する情報提供については、重要性を認識しつつも満足度は高くありませんでした。その背景として、年代によって情報源は異なり、若年層ではインターネットを活用している市民が多く、年齢が上がるにつれ、広報から情報を入手していることも原因のひとつと考えられます。そのため、年齢に応じた情報提供の方法を検討していく必要があります。また、障害のある人や子育て期にある人、介護者など、誰もが安心して来場できる環境を整え、会場での配慮やサポート体制の情報提供が必要です。

方向性

市民の誰もがどこでも学習情報を入手できるよう、年齢に応じた情報提供方法を工夫し、ITや広報等さまざまな媒体により、わかりやすく提供していきます。また、誰もが安心して生涯学習活動に参加できるための情報提供を充実します。

施策の展開

- ①情報提供手段の充実
- ②サポート体制の情報提供

(2) 相談機能の整備

現状・課題

学びのきっかけづくり、学習者のステップアップなど生涯学習活動を始める、続ける上での相談支援が求められています。本市では、学習したい人への相談や学習を提供したい人の相談を行ってきました。また、サークル団体においても、自らの発表会の開催時などの情報提供をはじめとした情報支援を行っています。今後、生涯学習活動を展開しやすい環境をめざしていく上で、学びたい人、学習を提供してくれる人に対する相談窓口の充実など、相談機能の整備を図っていく必要があります。

方向性

生涯学習活動への参加にあたってのサポートに関する相談など、生涯学習を行いたい人の様々な相談機能や、生涯学習を提供したい人に対する相談機能を充実する必要があります。こうした学びたい人、学習を提供してくれる人に対する相談機能の整備に努めます。

施策の展開

- ①学習したい人・提供したい人の相談

(1) 地域の人材発掘

現状・課題

地域に根ざした生涯学習を推進し、発展させるためには、学習者のニーズにあった指導者が必要であると同時に、市民の持つ能力や知識を生かし、協力してくれる人材の育成が求められます。本市には優れた知識や技術を有する市民が多く在住しており、人材情報の収集や人材バンクの設置を行っています。今後も、人的な資源を掘り起こすとともに、地域の学習活動への支援や学校教育に十分な活用をしていくための仕組みの整備が必要です。

方向性

市内に潜在している人的な資源を掘り起し、生涯学習人材バンクの充実・活用を進め、指導者として有効活用できる仕組みづくりをめざします。

施策の展開

- ①人材情報の収集
- ②人材バンクの活用

(2) 地域リーダーの育成

現状・課題

生涯学習社会において、充実した学習活動を行うためには、より専門的なリーダーシップを発揮できる地域の指導者を養成することが必要です。本市では、家庭教育、男女共同参画、地域のスポーツ活動などを推進するため、指導者の育成を行ってきました。アンケート調査においても「指導者・リーダーの育成」については、重要度、満足度ともに高くなっています。今後も、充実した生涯学習活動を行うためには、より専門的なリーダーシップを発揮できる地域の指導者を育成していくことが必要です。

方向性

生涯学習に積極的に取り組んでいる市民を学習活動のコーディネーターとしての育成に努めます。

施策の展開

- ①家庭教育を推進するための指導者の育成
- ②男女共同参画を推進するための指導者の育成
- ③国際交流活動を推進するための指導者の育成
- ④地域のスポーツ活動を推進するための指導者の育成
- ⑤芸術文化の振興を推進するための指導者の育成

(3) ボランティア活動の促進

現状・課題

ボランティア活動は、社会福祉だけでなく、教育、文化、国際交流、環境など広範な分野において、ボランティアの必要性及びその需要が高まっているとともに、ボランティアに対する意識の高さが顕著となっています。本市では、ボランティア活動の促進として、団体の紹介や場の提供、活動希望者の育成、相談などを行ってきました。アンケート調査では、生涯学習で学んだことを社会参加やボランティア活動に生かしていきたいと考えていることがうかがわれます。今後も、NPOとの協働を図るなど学習成果を生かし、ボランティア活動に参加しやすい体制を整備し、ボランティア活動が効果的に機能するための環境の整備を行っていく必要があります。

方向性

様々な学習を行った人たちが、学習成果を生かし、ボランティア活動に参加しやすい体制を整備し、各々のボランティア活動が効果的に機能するための環境の整備に努めます。そのため、ボランティア活動のコーディネート機能を充実します。

施策の展開

- ①ボランティア団体の紹介、調整
- ②ボランティア活動の場の提供
- ③ボランティア活動希望者の育成
- ④ボランティア活動に関する相談
- ⑤児童生徒のボランティア活動の推進

(1) 既存施設の活用

現状・課題

市民の主体的な学習等の活動を推進するため、生涯学習関連施設の整備と良好な管理運営を行い、安全で快適な学習空間の提供と利便性の向上に努める必要があります。本市においては、市民文化会館、すいとびあ江南など市全体を対象とした拠点施設のほか、各地域ごとに公民館や学習等供用施設などが整備されています。また、保健センター、老人福祉センターなどでも様々な学習活動が行われています。アンケート調査では、公民館・学習等供用施設・児童館などの身近な学習施設、図書館・市民文化会館などの文化施設、体育館・グラウンド・プールなどの体育施設などの整備、充実が求められています。市民の多様化した学習ニーズに対応した学習機会を提供するためには、既存施設の整備、充実が必要です。

方向性

既存の学習施設を整備、充実し、生涯学習活動の場を提供します。本市の基幹的な施設である市民文化会館、すいとびあ江南、布袋ふれあい会館などにおける学習活動を充実します。

施策の展開

- ①生涯学習施設の整備
- ②市民文化会館・すいとびあ江南等での学習の展開

(2) 新たな生涯学習拠点の整備

現状・課題

本市においては、市民文化会館や図書館、市民体育会館など市全体を対象とした拠点施設が整備されています。しかし、図書館では狭隘化が顕著であり、また、市民体育会館では老朽化が進行していることから、市民が安心して気軽に利用できる環境整備に努める必要があります。

方向性

市民が安心して、より質の高い生涯学習活動を展開するため、市民体育会館、図書館について、市民の安全確保を図りつつ、整備の検討を行います。市民体育会館については、防災機能を兼ね備えた新体育館建設に向け、建設地、建設規模、建設年次等の調査、研究を行います。図書館については、今後の図書館のあり方を、引き続き、さまざまな角度から調査、研究します。

施策の展開

- ①新体育館の整備
- ②新図書館の整備

第5章 計画推進に向けて

1 計画の推進体制

(1) 江南市生涯学習懇話会及び江南市生涯学習推進委員会の開催

市民の視点に立った生涯学習を推進するために、現在の「江南市生涯学習懇話会」及び「江南市生涯学習推進委員会」において、生涯学習の進捗状況の検証や計画的な推進に向けた提言を行います。

(2) 市民ニーズの把握

本計画は平成 24 年度を初年度とし、平成 33 年度までの 10 年計画となりますが、社会情勢の変化などによる市民のニーズを把握するため、必要に応じ、市民ニーズ調査を行っていきます。

(3) 市民や諸団体などとの連携

行政と市民、民間事業者、関係諸団体などとの連携を強化し、生涯学習振興に対する認識を共有し、協力し合いながら計画の推進に努めます。

(4) 国や県への要望

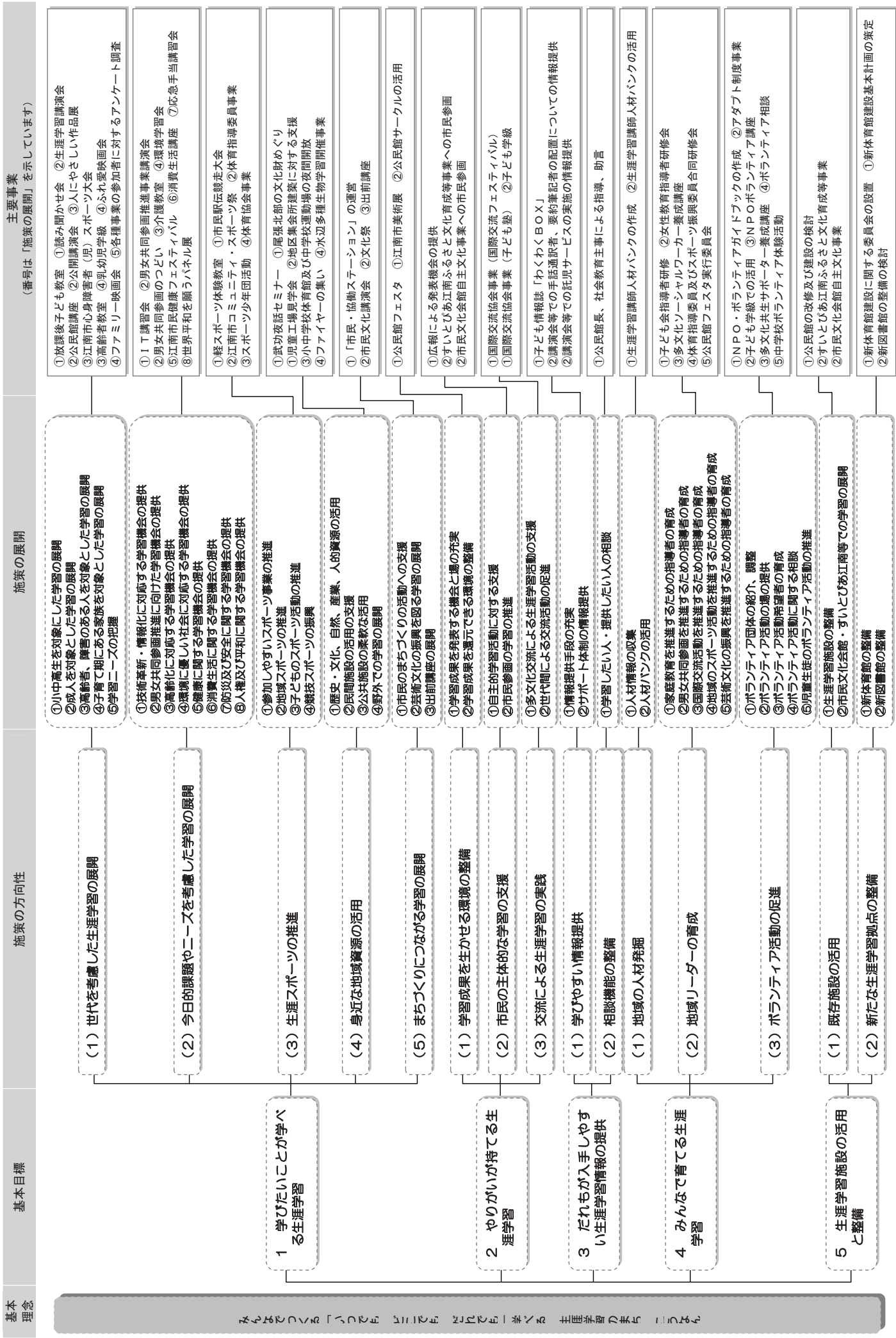
この計画には、国や県の施策に負うところもあり、関係機関に対して積極的な要望などを行うことにより、計画の推進に努めます。

2 計画推進に向けての連携

生涯学習は、学習形態にとらわれるものではなく、多岐にわたる活動などを含めたものであるため、その分野も広範囲に及びます。実施主体についても、行政や教育機関にとどまらず、様々な分野の市民団体や民間企業など多種多様です。

生涯学習を推進するにあたっては、学習機会や活動の場の提供主体が相互に連携し、協力し合い進めることが重要です。そのため、行政のみならず市民、地域、民間事業者、関係諸団体、教育機関、近隣市町とのネットワークづくりをめざします。

生涯学習基本計画 体系図



江南市生涯学習基本計画（案）

平成 23 年 10 月

発行 江南市

編集 江南市教育部生涯学習課

〒483-8701 愛知県江南市赤童子町大堀 90

TEL : 0587-54-1111 FAX : 0587-56-5517
